

事業概要

事業名

次世代型果実ジュース加工施設開発

コンセプト

柔軟な加工が出来かつ観光資源やプロモーションでも活用できる施設

キーワード

モバイル、コンパクト、見える化、安全安心、エンターテイメント、
加工観光、PR、儲かる、低コスト。

・背景

青森県全域にある青森県南部町は全国でも唯一町営の青果市場あり、バナナ、ミカン、パイナップル以外のフルーツが味わえるといわれるほど多品目の果実が収穫されます。生産を支える農家は他産地に先駆け特産果樹に果敢に取り組む、研究熱心でチャレンジ精神旺盛な人たちです。一方でさくらんぼ狩りをはじめとする四季折々の果物狩りや、古くから修学旅行者をターゲットに農家民泊を行うグリーンツーリズムの盛んなところ。さらに農産物産地直売所も南部町内だけで6軒と県内他に類をみない地域です。その産地直売所に目を向けてみると市場に出荷出来ない規格外品を町内の民間業者に委託して製造した果実ジュースが販売されています。しかしながら、そのジュースはまるでたたき売りかのような価格で販売されているのが現状で、農家の所得の向上につながってはいません。南部町には現在民間の加工施設が2か所ありますが、瓶への充填しか出来なく果実ジュースにしてみれば全て1L瓶で、現在の時代にそった多様な消費者ニーズに対応出来ていないため販売活動に支障をきたしています。なぜなら産地直売所で販売している瓶入り果実ジュースは近隣から来る自動車移動で持ち帰りが可能な消費者の購

入が中心ですが、瓶の重さや破損の可能性があるため購入につながらず、贈答用としても同等の理由で関東や関西への大消費地への販売に苦労しています。このため、生産者は値下げで購入意欲を喚起する方向に走り、ますますブランド力をなくした果実ジュースが売れ残る状況も生まれています。このことから南部町のジュース加工は農産物加工業のさらなる発展に大きく寄与できていないことが現状です。しかし、これら上記の背景を解決するためには、現行の果実ジュース加工品の再定義が必要と考えます。例えば、関東や関西の大消費地に気軽に果実ジュースを飲んでもらうなら、最低限の消費者ニーズ、安心安全なトレーサビリティがしっかりしていて、持ち運びの良さを追求した、ゴミにならない軽い容器で適量（150ml程度）のスパウトパウチに充填された商品を作る必要があると考えます。

・課題

南部町の果実ジュースを販売する生産者が直面している課題は、消費者ニーズに適応した加工が出来る施設がない為、販売に苦戦していることです。しかし、消費者ニーズに応えられる加工が出来る施設を新たに建てるとなると、既存の加工機器を設置した施設では、投資金額が大きく導入リスクがあります。またニーズに合った加工を受け入れてくれる加工施設は加工する最少ロットが大きすぎ中小規模の生産者が利用出来ないのが現状で、加工場の稼働率にも影響を与えているのではと考えます。

・狙い

適切な規模で多様なニーズに対応できる加工が求められているなかで、韓国で実現しているコンパクトシステムに加え加工施設の高度の衛生空間を確立するために、シャープ(株)が保有する「プラズマクラスター」技術を活用し、小規模で移動型の果実ジュース加工施設の実現を追求します。

・付帯状況

現在検討している加工施設は単なる加工施設ではなく、車載できるほどコンパクトで、移動式で外部から加工工程が見えるものです。加工自体をエンターテインメントとすることで、地元では新たな観光資源になり、消費地ではユニークな販売が可能になります。

しかし、次世代型加工施設を製作しても、食品衛生法において、①（自動車）による食品の移動営業に関する取扱要綱の営業許可等に、清涼飲料水（果実ジュース）製造業が入っていないこと。②清涼飲料水（果実ジュース）製造業の設置基準が都道府県で異なること。以上2点をクリアできるかどうかによるところが大きく、この問題の解決なくして、事業を前に進めることができません。特区や規制緩和を視野に関係行政機関との連携を必要とします。

・社会的効果

消費者ニーズに対応し、農家の利益につながる価格でジュースが売れることで、農家の所得向上に寄与する可能性。

加工と観光を結び付けることで、町の農産業にさらなる発展をもたらす可能性。

次世代型加工施設のモデル事例となり、加工機器エーカーの開発拠点になる可能性があり、加工機器業界の発展にもつながる可能性。

全国の果樹生産地の6次化モデルになる可能性。

中小規模の6次産業化に寄与する可能性。